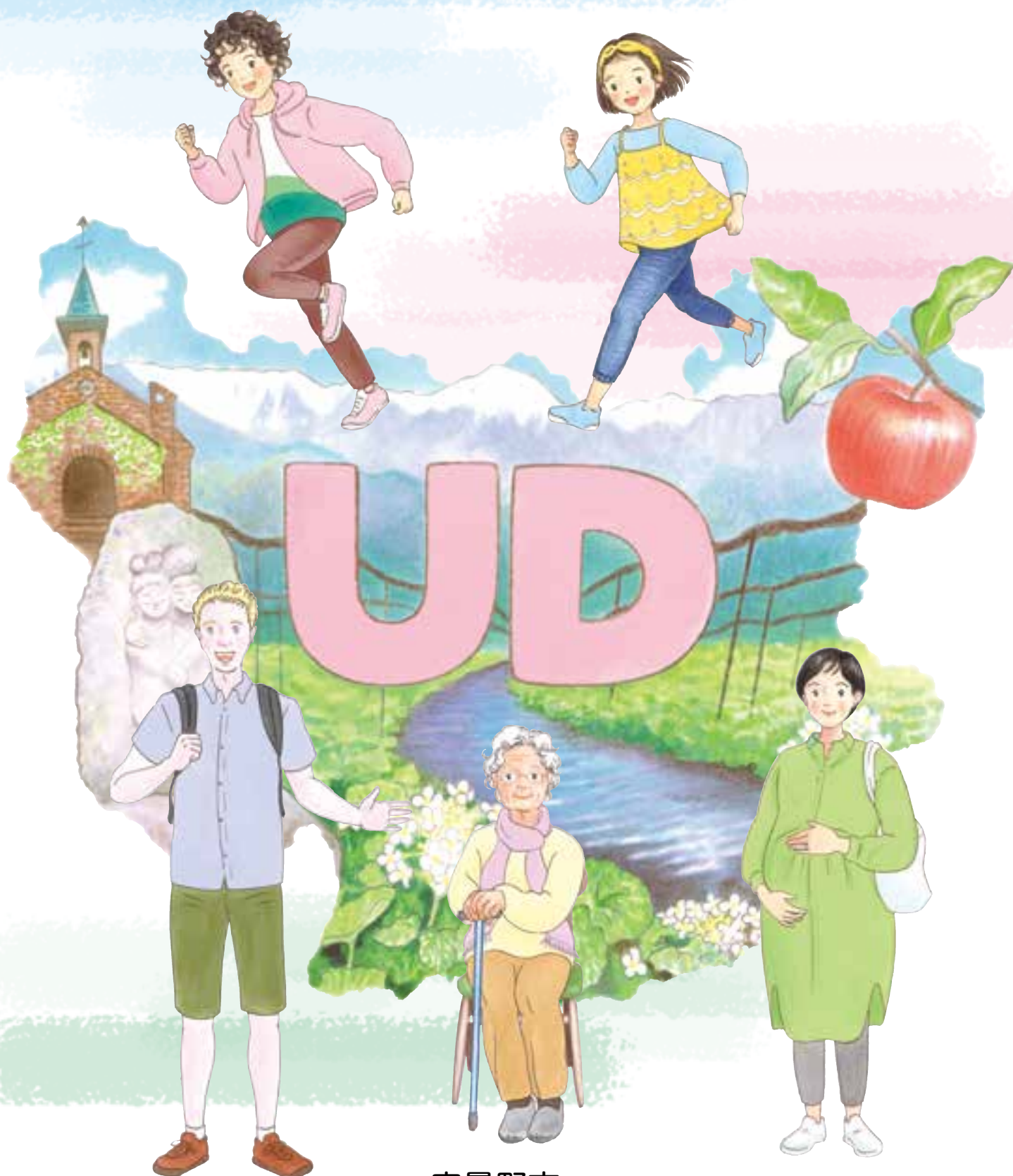


ユニバーサルデザインって なんだろう？



安曇野市

ユニバーサルデザインって なんだろう？

ユニバーサルデザインとは、「すべての人のためのデザイン」という意味で、年齢、性別、国籍、個々の能力などにかかわらず、はじめから多くの人にとって利用しやすい、まちづくりやものづくり、情報やサービスをつくっていかこうとする考え方です。

誰もが安全・安心して快適に利用できるのがユニバーサルデザインです。

●ユニバーサルデザイン7つの原則

ユニバーサルデザインには、デザインするうえで大切にすべき「7つの原則」があります。すべての条件を満たす必要はありませんが、誰もが使いやすいデザインにするために重要な要素になります。

①

公平性

誰もが同じように
目的を達成
できること



階段とエレベーターを
選んで利用できる

②

自由性

自分に合った
使いやすい方法を
選べること



高さの異なる
水飲み場

③

単純性

使い方が
簡単明瞭で
わかりやすいこと



押す部分が
大きなスイッチ

ユニバーサルデザインは
みんなのための
デザインなんだね。

④

わかりやすさ

必要な情報が
伝わり、すぐ理解
できること



ピクトグラムによる
案内表示

⑤

安全性

うっかりミスが
危険に
つながらないこと



ロックを解除して
給湯するポット

⑥

省体力

無理な姿勢をとる
ことなく、少ない力でも
楽に使用できること



センサー式の蛇口

⑦

空間性

体格や姿勢、可動性
に関係なく、使いやすい
寸法・空間があること



広いスペースのある
多目的トイレ



ユニバーサルデザインを考えた人

1980年代に自身も車いすを利用する障がい者であったアメリカ人建築家のロナルド・メイ
ス氏が「一部の人のために特別なものを用意するのではなく、誰もが利用しやすく、使ってみたく
なるようなものを作った方がいい」という考えのもと、ユニバーサルデザインを提唱しました。

どうしてユニバーサルデザインが 必要なの？

誰でも年齢を重ねれば見えづらくなったり、聞こえづらくなったりします。妊娠しているとき、子どもを抱えているときに階段を上るのが苦しくなったり、ケガをして移動するのに杖や車いすを使ったりすることになるかもしれません。

いろいろな人がいて、いつか自分もそうなることがあると、最初から考え、みんなが快適に過ごせるようにするため、ユニバーサルデザインは必要なのです。

●ユニバーサルデザインはみんなに関係があります。

容器を開けるとき



強い力が必要なものや、開け方が分かりにくい容器は不便です。

本やチラシを読むとき



文字が小さくて読みにくかったり、色の組み合わせによっては見えにくいことがあります。

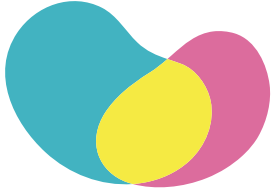
ユニバーサルデザインと バリアフリーの違い

バリアフリーは、もともとある建物や設備で、ある特定の人(障がい者や高齢者など)にとって障壁(バリア)になっているものがあれば取り除いていこうとする考え方です。

一方、ユニバーサルデザインは、計画のはじめから、障壁が生じないように作り、すべての人にとって利用しやすい生活環境をデザインしていこうとする考え方です。



私たちが取り組む ユニバーサルデザインとは？

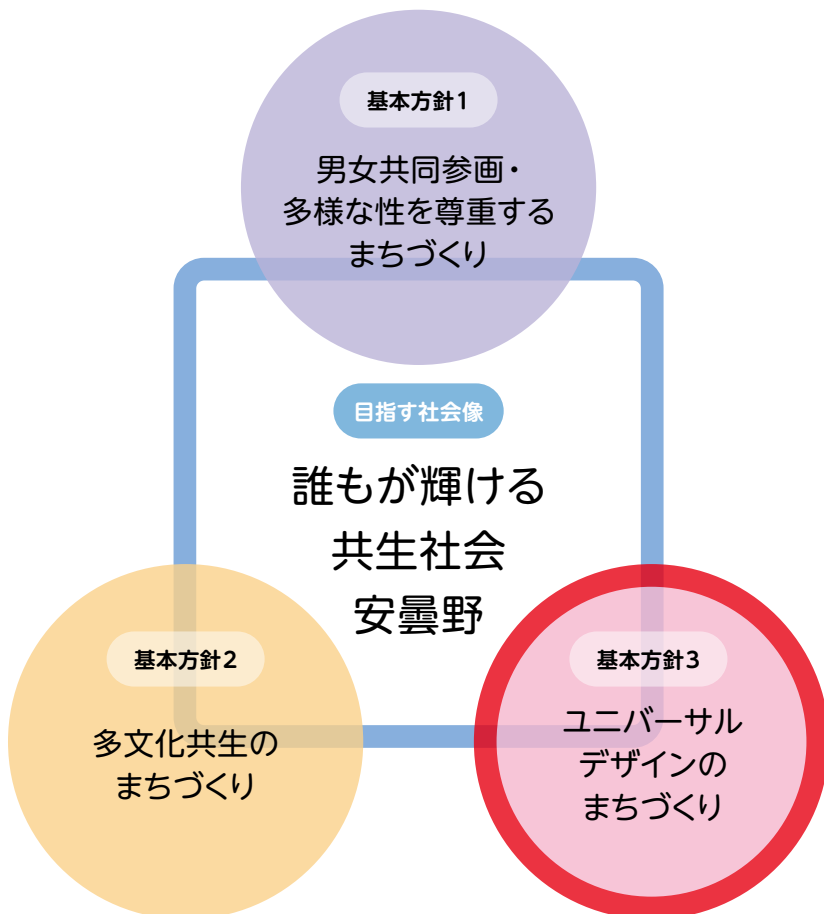


だれもが かがやける 共生社会へ
安曇野市

安曇野市共生社会づくり
ロゴマーク

誰もが安心して自分らしく暮らせる安曇野市を実現していくためには、「建物」や「もの」などのハード(かたちのあるもの)と、「情報・サービス」などのソフト(かたちのないもの)など、さまざまな分野にユニバーサルデザインを取り入れていくことが必要です。しかし、いくら建物や製品をユニバーサルデザインにしても、使う人のことを意識することが大切です。

本当に必要としている人、困っている人に気づき、お互いにゆずり合う「こころ(ハート)」のユニバーサルデザインを持つことが住みよいまちをつくりまします。私たちのまちには、年齢、体格、性別、身体能力、言語などあらゆる面で異なる、多様な人々が共に生活しています。ハード・ソフト・ハートの3つの面からユニバーサルデザインに取り組み、お互いを尊重し思いやりのあるまちづくりを目指します。



「誰もが輝ける 共生社会 安曇野」 基本方針

安曇野市の「多様性を尊重し合う共生社会づくり計画」では、「誰もが輝ける共生社会 安曇野」を目指しています。その基本方針の一つが「ユニバーサルデザインのまちづくり」です。なかでも「こころのユニバーサルデザイン」を大切にしています。

ソフト

一人ひとりにあった支援や
情報を受けられるような
「しくみ」をつくること。

ハード

まちや建物、乗り物などを
整備し、安全・安心・快適に
過ごせるようにすること。

ハート

多様性を尊重し、
思いやりのこころを持ち
行動すること。

声をかけあい、
ゆずり合えるまちに
したいな。



ユニバーサルデザインとSDGsとの関係

ユニバーサルデザインとは「人々の能力は多様であるのが当たり前」ということを前提に、最初から誰もが利用しやすい持続的なデザイン(環境づくり)を目的としています。一方SDGsは、地球上の「誰一人取り残さない」という考え方のもとに、国連加盟国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた17の目標です。つまり、SDGsのコンセプトそのものが、ユニバーサルであると言えます。そのためSDGsは、ユニバーサルデザインと多くの共通点があります。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

こころのユニバーサルデザイン

ハート

一人ひとりがお互いに助け合う「こころのユニバーサルデザイン」を持つことで、建物や製品のユニバーサルデザインが整っていなくても解決できることがあります。

困っている人を見かけたら声をかけてみる、こころに余裕をもって思いやりのこころをもつ。私たちの一つ一つの小さな行動がユニバーサルデザインをつくっていきます。

こころのユニバーサルデザインは、相手の立場に立って考え、思いやりのある行動ができることです。

車いすを使用している人

障がいがある方、高齢者、けがをしている人など、さまざまな人が車いすを利用しています。

困りごと

- ・段差やすき間を乗り越えるのが大変。
- ・坂道やじゃり道を移動するのは困難。
- ・高いところに手が届かない。

こんなことができます!

- 移動や手の届かないところへのサポートをする。
- 多機能トイレやエレベーターをゆずる。



内部障がいのある人

内部障がいとは、心臓・腎臓・呼吸器・膀胱・直腸・小腸・肝臓・免疫機能障がいなどで、外見からは分かりにくい障がいです。ペースメーカーやストーマ、生活補助器具などを使用する方が多いです。

困りごと

- ・疲れやすさや、体調の悪さを周りに理解してもらいにくい。

こんなことができます!

- 声をかける。席をゆずる。
- 多機能トイレやエレベーターをゆずる。



外国人

日本に暮らしている外国人、観光やビジネスで滞在している外国人がいます。

困りごと

- ・日本語の案内や説明が分からない。
- ・文化、宗教、習慣のちがいがから、誤解を受けることがある。

こんなことができます!

- スマートフォンなどを活用して案内する。
- 文化の違いを理解する。
- 日本のルールなどを伝える。



聴覚・言語に障がいのある人

まったく聞こえない、聞こえにくい人などさまざまな人がいます。外見からは分かりにくい障がいです。

困りごと

- ・後ろから声をかけても気づかない。
- ・音声だけの情報では分からない。

こんなことができます!

- スマートフォンや筆談で情報を文字にして伝える。
- 視界に入る場所から、ゆっくりと声をかけたり、ジェスチャーで伝える。

妊娠している人・赤ちゃんを連れている人

お腹が大きくなると、体のバランスがとりにくくなります。つわりで体調がすぐれない場合もあります。赤ちゃんを連れての移動は大変です。

困りごと

- ・階段の上り下り、立ち上がったたり、座ったりすることが大変。
- ・ベビーカーでは階段を使えない。
- ・おむつ替えやミルクをあげる場所に困る。

こんなことができます!

- 席や場所をゆずる。
- 泣いている赤ちゃんがいても、温かいところにいる。



いろいろな性

LGBTQ (性的マイノリティ)の方、多様な性への配慮が必要です。

困りごと

- ・「男らしくない」、「女らしくない」といった発言に傷つく。
- ・差別や偏見を受けることがある。
- ・男女別の施設や制度に困る。

こんなことができます!

- 男女だけでなく、いろいろな性があることを理解する。
- 「男なのに」「女だから」と性別によるイメージや思い込みをなくす。



高齢者

年を取ると、足腰が弱くなったり、目が見えにくくなったり、聞こえにくくなったり、物忘れをすることもあります。

困りごと

- ・段差につまずきやすい。
- ・小さな文字が見えにくい、音や声が聞こえにくい。
- ・重い荷物を持つのが大変。

こんなことができます!

- ゆっくり、はっきり、大きな声で伝える。
- 荷物を持つお手伝いや移動のサポートをする。

視覚に障がいがある人

まったく見えない人、光だけ感じる人、部分的に見えない人、色の識別に困る人など人によって見え方が異なります。

困りごと

- ・段差や路上の障がい物に気づかず危険なことがある。
- ・買い物では商品やカードの区別に困る。

こんなことができます!

- 声をかけて情報を伝える。
- 路上の障がい物をなくす。



そのほかにも…

知的障がい・発達障がい・精神障がい・認知症・高次脳機能障がいがある人など。

困りごと

- ・外見からは障がいがあることがわからないことも多く理解されない。
- ・人との関わりやコミュニケーションが取りにくい。
- ・社会や他の人に合わせた行動が苦手。
- ・自分が困っていることがわからない、あるいは、うまく伝えられない。

こんなことができます!

- いろいろな人がいることを理解し、尊重する。
- 話をするときは、分かりやすく、ゆっくり、ていねいに、くりかえし伝える。
- ※お手伝いするとき、成人に対しては子ども扱いしない。

ポイント1

困った様子の人がいたら、「ひと声」かけてみる。

困っている人や迷っている人を見かけたら、「どうしましたか?」「何かお手伝いしましょうか?」などと声をかけましょう。

ポイント2

話をよく聞く。困っていることが何かを知る。

困っていることは人によって違います。勝手な思い込みや判断をせず、どんな助けが必要なのか聞いてみましょう。もし断られても「必要がなかった」と安心できます。

ポイント3

ゆずり合いの気持ちを持って、心に余裕を。

エレベーターや誰でもトイレなどは、必要としている人にゆずりましょう。まちにはいろいろな人がいます。心に余裕を持って思いやる気持ちが大切です。

しくみ・情報の ユニバーサルデザイン

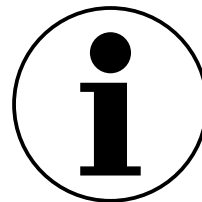
ソフト

しくみ・情報のユニバーサルデザインは、みんなが安心して快適に暮らすことができるよう、一人ひとりにあった支援や情報が受けられるしくみをつくることです。高齢者や障がい者、外国人をはじめ、さまざまな人の役に立ち、誰にでも見やすく、分かりやすい情報であることが大切です。

案内板

日本語以外の言葉やピクトグラムで案内すると多くの人にわかりやすくなります。

ピクトグラムは文字を使わず、情報をデザイン化したものなので、小さな子どもや外国人にも理解しやすくなります。



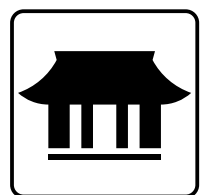
案内



お手洗



博物館 / 美術館



歴史的建造物



●UDフォント

UDフォントとは字面を広く、画線をシンプルにするなど読みやすく、誤読を防ぐよう工夫された文字です。

目が悪く文字がぼやけて見える方や、白内障や発達障がい(ディスレクシア)で太い部分と細い部分が混在すると読みにくい方などにとって、より読みやすく工夫されています。

○字面を広くする



ふところを広くし、大きく

○画線をシンプルにする



シンプルにしてアキを確保する

○誤読を防ぐ ※右がUDフォント

焦点ずれ



原型



アキを確保して判断しやすく

●カラーユニバーサルデザイン

色は誰にでも同じように見えているわけではありません。ある人にとって区別しやすい配色が、別の人には区別しにくいことがあります。色覚に障がいのある人は、男性では20人に1人、女性では500人に1人いると言われています。

背景や文字の色の組合せなど、配色によって見やすさが変わります。

○文字色と背景色

見分けにくい色の例



見分けやすい色の例



●文字の大きさや行間

小さな文字で書かれた文章を読むのが大変な人もいます。UDフォントなどの文字は読みやすさを高める一つの手段であり、文字の大きさや行間等を工夫することも大切です。

個性や違いにかかわらず、最初から誰もが利用しやすく、暮らしやすいユニバーサルデザインのまちづくり。

文字サイズ:10ポイント 行間:文字サイズの120%



個性や違いにかかわらず、最初から誰もが利用しやすく、暮らしやすいユニバーサルデザインのまちづくり。

文字サイズ:12ポイント 行間:文字サイズの150%

○地図の配色

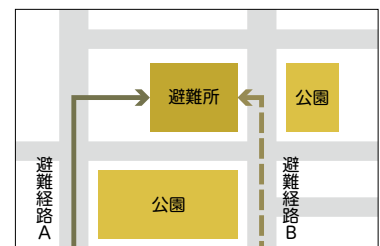
問題点: ●避難所「オレンジ」と公園「黄緑」が同じように見える。

●避難経路の線が同じような色に見える。

一般色覚者の感じ方



D型色覚の感じ方



改善点: ●避難所を「暗い黄色」に、公園を「明るい緑」に変えます。

●避難経路を「青色」、「赤だいたい」に変えます。

●避難経路の線種を変え、縁どりをつけます。

●避難所に線網掛けをします。●色名を併記します。

一般色覚者の感じ方



D型色覚の感じ方



すべての人が利用しやすい情報の提供

みんなにやさしい情報提供ツールとして、ホームページ(インターネット)や携帯電話、スマートフォン・タブレットなどを活用することができます。高齢者や障がい者だけでなく、誰にでもわかりやすく情報を伝える工夫が必要です。

●スマートフォン・タブレット

画面表示を拡大したり、フォントや背景色、明るさを変更する機能があります。また、文字を音声で読み上げたり、音声を認識する機能があります。



●パソコン

ユニバーサルデザインに配慮した安曇野市のホームページでは、多言語表示(①)、やさしいほんご(②)、音声読み上げ(③)、ルビ振り機能(④)、文字サイズや背景色の変更(⑤)などがあります。

○「やさしい日本語」とは、ふつうの日本語よりも簡単で、外国人にもわかりやすい日本語のことです。

高齢者の方にとっては、パソコンや携帯電話などの使い方がわかりにくいこともあります。パソコン講習会などの支援とともに、人による案内サポートも充実させて、すべての人に伝わるしくみをつくるのが大切です。



ものづくりの ユニバーサルデザイン

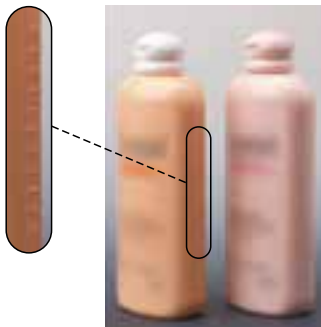
ハード

ものづくりのユニバーサルデザインは、年齢や能力などの個人差によらず、誰でも同じように使えるデザインが考えられています。私たちがいつも使っている製品やモノにもユニバーサルデザインが広く取り入れられています。

身の回りにあるユニバーサルデザイン製品

●シャンプー・リンスの容器

シャンプーの容器には、ギザギザの線がついているため、リンスと区別することができます。



●ペットボトル

ペットボトルには、くぼみや、表面にでこぼこをつけた加工がしてあるため、持ちやすくなっています。



●文房具

右利き・左利きに関係なく使えるカッターナイフ、弱い力でも握りやすいはさみなど。



●ユニバーサルデザイン対応の自動販売機

選択ボタンが低めの位置にあることで、車いす利用者などが購入しやすくなっています。また、かがまずに済むように商品取り出し口を高めに配置しています。ほかにも、コイン投入口に受け皿がついていたり、商品を仮置きできる台がついているなど、さまざまな工夫がされています。



- ① 上段の商品選択ボタンは低い位置に配置。
- ② 商品の取り出し口は高い位置で取りやすく。
- ③ 商品や小物を置けるテーブルを設置。
- ④ ユニバーサルカラーとやさしい操作設計を採用。



建物・まちなかのユニバーサルデザイン

ハード

不特定多数の人々が利用する公共施設などの建物では、サインやスロープ、トイレの整備などにより、誰もが安心して快適に使える空間とすることが求められます。

建物やまちなかには次のようにさまざまなユニバーサルデザインの取組があります。

いろいろな工夫で
誰もが快適に使えるんだ。



●ワンフロアサービス

戸籍、税金、国保、子育て関連の手続きなど、多くの窓口をワンフロアにまとめ、移動にかかる負担を減らしています。



●予約制乗合タクシー(あづみん)

乗りたいときに電話やスマートフォンアプリ「LINE」から予約すると、他の利用者の方と乗り合って希望する目的地まで送迎する乗り合いタクシーです。



●子育て支援施設

全面フラットの床やおむつ替えシート、親子で一緒に使えるトイレなど子どもが安全に遊べて、親子で交流できる空間づくりをしています。



●駐車場

車いすやベビーカーを利用する人が、雨の日でも濡れないように、駐車場から建物まで屋根がついています。段差もなく、スペースも広めです。



●多目的トイレ(だれでもトイレ)

多様な特性をもつ人が利用できるトイレ。誰でも使えるトイレですが、混みあっているときは本当に必要としている人にゆずることが大切です。



●文化施設

段差のない床や広い空間、誰でもトイレ、授乳室などの設備を整えることで、多くの人が集い、交流しやすい施設となります。



●移動しやすい階段

高さが異なる手すりは、背の高さに合わせて選べるようになっています。階段の段差を低く、踏み面を広くすることで、上り下りがしやすくなっています。



●点字ブロック

案内窓口等まで点字ブロックを整備することで、点字ブロックの設置が困難な室内での移動を円滑にできるよう配慮しています。

配慮を必要とする人たちに関するマーク



障がい者のための国際シンボルマーク

障がい者が利用できる施設等であることを示すマーク。



盲人のための国際シンボルマーク

視覚障がい者に配慮した建物、設備等であることを示すマーク。



ほじょ犬マーク

補助犬(盲導犬・聴導犬・介助犬)を受け入れる施設で表示するマーク。



耳マーク

聴覚に障がいがあることを表すマーク。



聴覚障がい者標識

聴覚障がい者が運転する車に表示するマーク。



身体障がい者標識

肢体不自由者が運転する車に表示するマーク。



ヘルプマーク

障がい者など援助を必要とする方が、周囲の人に必要な支援や配慮をお願いするためのマーク。



ハート・プラスマーク

体の内部に障がいがある人を示すマーク。



オストメイトマーク

人工肛門・人工膀胱を造設している人(オストメイト)のための設備があることを示すマーク。



マタニティマーク

妊産婦であることを示すマーク。



パーキングパーミット

移動に配慮を必要とする人に交付される利用証。障がい者専用駐車場を利用できる。

登場人物



ゆう

中学生。目に見えない障がいを持っている。



あい

ゆうさんの同級生。



なごみ

ゆうさんのお母さん。妊婦さん。



たまき

なごみさんの義理のお母さん。足腰が弱い。



アラン

カナダからの旅行者。

キャラクターデザイン・イラスト まるやま あやこ

発行：安曇野市 政策部 人権共生課

発行日／令和6年2月

〒399-8281 長野県安曇野市豊科6000番地

TEL:0263-71-2406 FAX:0263-71-5155

E-mail: jinken@city.azumino.nagano.jp

市のホームページでも公開しています。

